

急性C型肝炎を発症した事例

1998年3月、骨髄採取後の非血縁骨髄ドナーが急性C型肝炎を発症しました。

【経過】

骨髄提供の約2週間後に急性C型肝炎を発症、再入院し、治療の結果肝炎は治癒しました。

その後職場復帰され、通常の生活に戻られています。

原因について、詳細に調査した結果、骨髄採取のための入院中に感染した可能性が推測されました。感染の原因となった医療処置を特定することはできませんでした。

【対策】

当財団では全国の採取施設に対し、同様の事例の防止策として次のとおり「安全情報」を発出しました。

使い捨て骨髄採取針使用の推奨

自己血輸血用血液の採血・保管・輸血の手続きと、注意事項や汚染血の取り扱い方法等が記載されている「自己血管理マニュアル」の遵守

緊急安全情報 (PDF)

安全情報(報告) (PDF)